

ジェレミー・ストリック Jeremy Strick

1955 年、米国カリフォルニア州ロサンゼルス生まれ

ジェレミー・ストリックは、アメリカを代表する美術館ディレクターおよびキュレーターの一人であり、ナッシャー彫刻センター（Nasher Sculpture Center）館長、ならびにロサンゼルス現代美術館（Museum of Contemporary Art, Los Angeles／MOCA）館長を歴任した。長年にわたり、アメリカの近現代美術を牽引する主要美術館において、展覧会企画、コレクション形成、館運営に携わってきた。

2009 年から 2024 年まで、テキサス州ダラスのナッシャー彫刻センター館長を務め、コレクション、展覧会および美術館運営を統括した。在任中には、ジャウメ・プレンサ、レイチェル・ホワイトリード、アレクサンダー・カルダー、トニー・クラッグ、エルネスト・ネット、ケン・プライスらによる重要な展覧会を企画・監修し、同館の国際的評価向上に大きく貢献した。

それ以前には、ロサンゼルス現代美術館（MOCA）の館長を 9 年以上にわたり務めた。在任中、同館は国際的な評価を大きく高め、「WACK! Art and the Feminist Revolution」（2007）、村上隆展「©MURAKAMI」（2007）、「Marlene Dumas: Measuring Your Own Grave」（2008）、「Martin Kippenberger: The Problem Perspective」（2008）、「Basquiat」（2005）、「Lucian Freud」（2003）、「Andy Warhol Retrospective」（2002）、「Superflat」（2001）など、現代美術史において重要な展覧会を数多く開催した。また、MOCA Pacific Design Center の開設、収蔵作品の大幅な拡充、会員数の 80% 以上の増加を実現するなど、美術館の発展にも大きな足跡を残した。

さらに、シカゴ美術館（Art Institute of Chicago）のシニア・キュレーターを務めたほか、セントルイス美術館（Saint Louis Art Museum）およびワシントン D.C. のナショナル・ギャラリー（National Gallery of Art）においてキュレーター職を歴任した。これまでに、「Louise Bourgeois: The Personages 1946-1954」（1994）、「In the Light of Italy: Corot and Early Open-Air Painting」（1996）などの展覧会を企画し、高い評価を得ている。

ハーバード大学（Harvard University）大学院で学び、1977 年にカリフォルニア大学サンタクルーズ校（University of California, Santa Cruz）にて美術史の学士号を取得。近現代美術に関する執筆・講演活動も精力的に行っている。